



Fukui Social Welfare

こころでつながろう!福井

去る10月23日、「第68回福井県社会福祉大会」が開催されました。 記念講演では、お笑いコンビ「髭男爵」の山田ルイ53世氏から、 ひきこもりをテーマにご講演いただきました。学生時代にご自身が ひきこもりになった状況やその時の気持ち、また、人生が常にキラ キラと輝いている必要はないのでは、という投げかけを笑いを交えて 楽しくお話いただきました。(6ページに関連記事)







福井県社会福祉大会の表彰式と記念講演の様子

CONTENTS

「ひきこもり・8050問題の理解促進と支援の輪づくり」 「ひきこもり」とは、どのような問題なのか?

- 6P 報告
 - ◆ JC福井ブロック協議会との協定締結
 - ◆第68回福井県社会福祉大会報告
- 介部 ◆ 令和3年度福井県社会福祉協議会・ 福井県共同募金会会長表彰受賞者一覧
- 9P 社協トピックス
 - ◆第60回福井県保育研究大会報告
 - ◆令和4年度技能実習生受入れ施設募集
- ⑩→寄付・寄贈
 - サキドリ情報
 - ◆第10回ふくいチャリティー・アート展のご案内
 - ◆「つなぐ福幸メッセ」作品展示のご案内

ひきこもり・8050問題の理解促進と支援の輪づくり

ひきこもり」とは、どのような問題なのかの

げる特別企画の第3弾 県社協の中期活動計画「第5次ふく で定めたチャレンジテーマを取り上 |域福祉プラン21](令和2~6年

の理解促進と支援の輪づくり」を取り 上げます 今号では「ひきこもり・8050問題

でひきこもり状態にある方の推計数 かび上がってきています。 な課題を抱える「8050問題」も浮 高齢化に伴い収入や介護等で複合的 きこもり期間も長期化しており、 ることが明らかになりました。また、ひ 15~39歳の推計数を上回る状況であ 調査」において、40~66歳までの中高年 に内閣府が行った「生活状況に関する と考えられてきましたが、 平成30年度 等との関連から青少年・若年期の問題 ひきこもりは、従来、不登校やニート

せた支援策の充実には課題が残されて の実態把握や一人ひとりの状況にあわ ましたが、人数も含め、ひきこもりの方 は相談窓口が設置されるようになり こうした背景を受けて、県や市町に

るのかを考えます からどのような取組みが求められてい 支援の現状を踏まえ地域福祉の観点 今回の特集では、 ひきこもりの方への

ひきこもり」の定義とは

評価・支援に関するガイドライン」(平 成22年)での次の定義を用いています。 する研究」で作成された「ひきこもりの もたらす精神科疾患の実態把握と精神 科学研究事業 生労働科学研究費補助金こころの健康 医学的治療・援助システムの構築に関 国は、「ひきこもり」の定義として、 「思春期のひきこもりを 厚

含む就労、家庭外での交遊等)を回避 していてもよい)」 て概ね家庭にとどまり続けている状 加(義務教育を含む就学、非常勤職を 様々な要因の結果として社会的参 (他者と交わらない形での外出を 原則的には 6ヵ月以上にわたっ

の ションを取れたりするようになるまで 援者が、本人と接したり、コミュニケー 的な回復とは言えないということです。 こもり」状態から脱したとしても、 プローチすることなく、表面的に「ひき を表すものという基本的な認識です。 つまり、その背景にある様々な要因にア 「様々な要因の結果」として生じる状態 ここで重要なのは、「ひきこもり」とは また、ひきこもり支援の難しさは、支 ハードルがあることです。 、本来

> 招いているという状況もあります。 できずに、ひきこもり状態の長期化を といった誤った認識や周囲の偏見等か 族から寄せられることになります。

> > なりました。 方が半数近くにも及ぶことも明らかに きこもり状態になってから7年以上の 状態にあると推計されました。また、ひ 45%に当たる61・3万人がひきこもり は、全国の4~64歳までの人口の1・ 内閣府の平成30年度調査の結果で

方の間違い」や「甘やかし」から生じる さらに、家族もひきこもりが「育て 多くの場合、ひきこもりの相談は、 悩みを抱えながらもどこにも相談

ひきこもりの者の推計数

(出典:内閣府 平成30年度「生活状況に関する調査」の概要より)

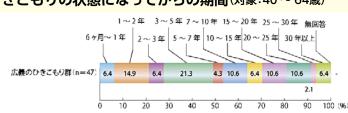
【平成30年度調査(対象:40~64歳)の結果】

| | 駭当人数 (人) | 有効回収数に 占める割合(%) | 全国の推計数 (万人) | |
|------------------------------------|----------|--------------------|----------------|---------------------|
| ふだんは家にいるが、自分の趣味に 関する用事のときだけ外出する | 19 | 0.58 | 24.8 | 】 準ひきこもり群 24.8万人 |
| ふだんは家にいるが、近所のコンピニなどには出かける | 21 | 0.65 | 27.4 | 狭義のひきこもり群 |
| 自室からは出るが、家からは出ない 又は自室からほとんど出ない | 7 | 0.22 | 9.1 | 36.5万人 |
| 8† | 47 | 1.45 | 61.3 | 広義のひきこもり群 61.3万人 |

【亚成27年度調査/対象・15~30歳)の結里】

| (平成27年長調査(対象・15~59歳)の指来。 | | | | | |
|------------------------------------|---------|--------------------|----------------|---------------------|--|
| | 該当人数(人) | 有効回収数に 占める割合(%) | 全国の推計数 (万人) | | |
| ふだんは家にいるが、自分の趣味に 関する用事のときだけ外出する | 33 | 1.06 | 36.5 | 準ひきこもり群 36.5万人 | |
| | | | | | |
| ふだんは家にいるが、近所のコンビ ニなどには出かける | 11 | 0.35 | 12.1 | 狭義のひきこもり群 | |
| 自室からは出るが、家からは出ない 又は自室からほとんど出ない | 5 | 0.16 | 5.5 | 17.6万人 | |
| 8† | 49 | 1.57 | 54.1 | 広義のひきこもり群 54.1万人 | |

ひきこもりの状態になってからの期間(対象:40~64歳)



べています。 りの長期化による影響を次のように述 前述のガイドラインでは、ひきこも

となる可能性がある。」 障害を発症するストレス要因の一つ 的な健康を損なわせ、何らかの精神 たハンディキャップはしばしば精神 壁を形成する可能性がある。そうし から社会参加への展開を妨げる高い どもあり、長期化はひきこもり状態 が就労での障害となりやすいことな き、さらにはひきこもっていた時期 を提供される機会が徐々に減ってい 活動に再び参加するチャレンジの場 すだけでなく、学校や社会の通常の 相応の学習や社会的体験の機会を逃 される。また心理・社会的には、年齢 身体疾患、あるいは使用しないこと 体的には、衛生面、栄養面での問題や に深刻な影響を与える。生物的・身 体的ならびに心理・社会的な「健康 による身体的機能の低下などが懸念 「ひきこもりの長期化は当事者の身

となっています。 長期化を防ぐための早期の支援が重要 こうしたことからも、ひきこもり

④段階的な社会参加

ひきこもり支援の4つの段階

ひきこもり支援の4つの段階

に]平成31年3月発行] 援センター「ひきこもりの理解のため ています。(参考:島根県ひきこもり支 支援には、4つの段階があると言われ ひきこもりの特性から、 ひきこもり

へのアブローチ

参加等の方法がある 別相談、家族教室への参加、家族会への 家族との関係改善をめざす。家族の個 して適切な対応をとることで、本人と 家族がひきこもり状態を正しく理解

②本人への個別アプローチ

本人との1対1の関係づくりをめざ がある。 す。本人の個別相談、家庭訪問等の方法 と、次は、家族以外の他者(支援者等)と 家族と本人との良い関係が築ける

③(中間的な)集団の場への参加

その方に合った社会参加を目指す

島根県ひきこもり支援センター「ひきこもりの理解のために」

の一対ーの関係が築けると、次は、家庭 家族以外の他者(支援者等)と本人と

親の会 (福井県ひきこもり地域支援センター ホッとサポートふくい) つらい気持ちがよく分かり合える

の気持ちに応える場をいいに助けてほしい」

「どう対応して良いかわからない」と

積む。当事者が集まる小さい集団の場 以外の場で他者と交流し、 に参加する。 社会経験を

の方にあった社会参加をめざす。 ボランティア、復学、就労支援等、 t

探っていきます。 的な支援の糸口を、 では、それぞれの段階における具体 県内の取組みから

①家族へのアプローチ

②本人への個別アプローチ

同じ悩みを持つ者同士だからこそ、

栗津智真さん、支援コーディネーターの 狭健康福祉センター)を訪問し、職員の から設置している嶺南サテライト(若 ています。その取組みについて、昨年度 ない」と悩んでいる方やその家族を対象 田中佐苗さんにお話を伺いました。 に、個別相談や親の会等の支援を行っ てよいかわからない」「誰にも相談でき では、「ひきこもり状態にあるがどうし 福井県ひきこもり地域支援センター

> り目には症状も重くなるなど、経過は 南サテライトは昨年度開設したとい 守ったり、様子を見て外出に誘ったり ピリピリしている様子の時は静かに見 ではありません。それでも参加されて 意見交換を行っています。季節の変わ 高年の子を持つ親御さんまで約10名が をきっかけに、今では若い年代から中 タートでしたが、市町広報誌での周知 うこともあり、親の会も1名からのス や親の心がけなどを学んでいます。嶺 けて、回復につながる本人への接し方 ています。親の会では、毎回テーマを設 親の会が嶺北・嶺南で月1回開催され にしている方もおり、周囲の人が理解 れています。また、地域の人にオープン するなど、気長に本人と関わろうとさ いる方は、親として焦る気持ちを抑え、 参加されています。 いった親の気持ちに応える場として、 し、見守ってくれるようになったと話 一進一退で、必ずしも良い報告ばかり 会では、毎回近況報告と関わり方の

す方もいます。 同士でなじみの関係性もでき、 てから約1年が経過しますが、 嶺南サテライトの親の会は、 意見交 参加者 開催し

軽くなっ 気持ちが 換の中で て帰られ

るようで る方もい

田談空□(「福井旦 ひきこもり・不登校支援 情報サイト」より)

| 相談怒山 (福井県 ひきこもり・小登校支援 情報サイト]より) | | | | |
|---|--|------------------------------|--|--|
| 県·市町 | 担当機関 | 電話番号 | | |
| | ホッとサポートふくい(総合福祉相談所) 福井県ひきこもり地域支援センター(嶺北) 嶺南サテライト | 0776-26-4400 同上 | | |
| | 福井健康福祉センター 地域保健課 | 0776-36-3429 | | |
| | 坂井健康福祉センター 福祉健康増進課 | 0776-73-0600 | | |
| 福井県 | 奥越健康福祉センター 地域保健福祉課 | 0779-66-2076 | | |
| | 丹南健康福祉センター (鯖江)健康増進課 | 0778-51-0034 | | |
| | 丹南健康福祉センター(武生福祉保健部)健康増進課 | 0778-22-4135 | | |
| | 二州健康福祉センター 地域保健課 | 0770-22-3747 | | |
| | 若狭健康福祉センター 地域保健課 | 0770-52-1300 | | |
| 福井市 | 生活支援課 自立サポートセンターよりそい | 0776-20-5580 | | |
| 敦賀市 | 地域福祉課 | 0770-22-8176 | | |
| 小浜市 | 高齢・障がい者元気支援課 | 0770-64-6012 | | |
| 大野市 | 福祉こども課 | 0779-64-5142 | | |
| 勝山市 | 福祉・児童課 | 0779-87-0777 | | |
| 鯖江市 | 社会福祉課 | 0778-53-2217 | | |
| あわら市 | 福祉課 健康長寿課 | 0776-73-8020 0776-73-8023 | | |
| 越前市 | 社会福祉課 | 0778-22-1020 | | |
| 坂井市 | 福祉総合相談室 | 0776-50-3163 | | |
| 永平寺町 | 福祉保健課 | 0776-61-3920 | | |
| 池田町 | 保健福祉課 | 0778-44-8000 | | |
| 南越前町 | 保健福祉課 | 0778-47-8007 | | |
| 越前町 | 福祉課 | 0778-34-8725 | | |
| 美浜町 | 健康福祉課 | 0770-32-6704 | | |
| 高浜町 | 保健福祉課 福祉グループ | 0770-72-5887 | | |
| おおい町 | すこやか健康課 | 0770-77-1155 | | |
| 若狭町 | 福祉課 | 0770-62-2704 | | |

※相談は平日の日中です。ひきこもり以外の福祉に関する相談についてもご連絡ください。

と親の会の両輪で、 る人の存在」が大事。今後も、 ひきこもりの回復には、「理解してくれ 等を紹介し、段階的に支援しています。 れる方には、 回復の兆しが見え、つながりを希望さ 通うようになってきます。このように く話をしてくれるなど、少しずつ心が ることができた事例では、 が良好になり、 ずつ変化が現れてきます。親子関係 家族の関係性や本人の様子にも少 別相談、 居場所(フリースペース) 親の会を継続していく中 親を通して本人に接す 継続した支援が必 会えば明る 個別相談

個別

相談と親の会の両輪で支援継続

福井県発達障がい者児支援センター(県の委託機関) 専門スタッフが相談、自宅訪問、就労支援等、幅広い支援を

行っています。 スクラム福井

| 福井 福井市光陽2丁目3-36 総合福祉相談所内 | 0776-22-0370 |
|--------------------------|--------------|
| 奥越 大野市篠座79号53番 希望園内 | 0779-66-1133 |
| 敦賀 敦賀市櫛川41号2番地の3 パラレル内 | 0770-21-2346 |

児童・生徒に関する相談先

| 福井県教育総合研究所 教育相談センター | 0776-51-0511 (24時間対応) 0120-0-78310 (フリーダイヤル) |
|------------------------|---|
| 嶺南教育事務所 教育相談室 | 0770-56-1310 |



ムした「こむふく」

やB型の事業所に通う中で、

題を抱 5, 的な課 や心の ら、令和 れ、 た方、ひ きこもり 2年3月 に設立さ 方や家 福 え間 題 祉

気楽に立ち寄れる居場 フリースペース「こむふく」は、 所

1=

野菜を作り、

利用者同士で調理して食

ゲームをしたりして過ごします。畑で

約20名が登録しています。

来所した方は話をしたり、

ボ

ド

す。現在、30代を中心に20代から60代の の10時から16時までオープンしていま く」を開所しました。月曜日から金曜日 居場所としてフリースペース「こむふ 月からは気楽に立ち寄ることができる 支援等によるアウトリーチを開始。10

えている問題や課題を共有し役に立ち び、落ち着いたのどかな雰囲気です。 周辺には小学校や商店、 春江駅に程近い県道沿いにあります。 八福井コミュニティ協会は、 「こむふく」を運営する一般社団 住宅が立ち並 地域が抱 J R

> 社会の中で回復するネットワークを ひとりで回復してもつまらない

て支える中村宰さんにお伺いしました。 動の様子をボランティアスタッフとし べることもあります。そんな様々な活

たいとい

マッチしたそうで、就労継続支援A型 が、その後の福祉的就労が中村さんに は「失敗や挫折を繰り返す日々」でした 断が出て、治療を受けました。その期間 調、感情障がい、アルコール依存症の診 うです。自閉スペクトラム症に統合失 想等に悩み、 後から数年間は、アルコール依存や妄 もりを経験した当事者です。高校卒業 て関わっていますが、ご自身もひきこ こむふくでボランティアスタッフとし 中村さんは、この11月から週に4日 ひきこもる毎日だったそ

要だと感じています。さらに、 援センターと連携しながら、 てくださいました。 人に対する支援を行っています。 ひきこもりの相談は各市町や各健 「地域

(中間的な)集団の場への参加

ともにゆっくり歩める居場所 こむふく (一般社団法人 福井コミュニティ協会)

す。それぞれの機関は、県ひきこもり支 福祉センターにも窓口が置かれていま 方々の理解と協力も必要」とお話しし 家族や本 康

> ています。 日本大震災被災地の支援活動を継続 つながりを大切にし、バザーの開催、 族の支援を行ってきました。地域 令和2年4月に 坂井市の委託 によ 東

ひきこもりの方への積極的な訪問



す。 スタッフ以外 に至ってま かかり、現在 中村さん こむふく

コロナ禍で自助グ 助グループ ル依存症の自 にもアルコー

グの必要性も感じています。 方、やはりリアルに「会う」ミーティン 超えたつながりに手ごたえを感じる一 ループをオンラインで開催し、距離を を主催しています。

も静かな熱意も感じます。 い」と話す姿には、気負いがないながら けるようにネットワークをつくりた せます。また、「ひとりで回復してもつ めることが今の生きがい」と、目を輝か ル依存症の自助グループの取組みを広 が社会に恩返しすることと、アルコー 中村さんは、「ひきこもりだった自分 社会の中で皆が回復してい

農福連携で「つながる」 場づくり 「できる」達成感と自信を引き出す実践 、特定非営利活動法人 ピアファーム)

できることを応援する

「さりげなく、あたりまえに働く」を

きることを応援する」実践が続けられ 継続支援B型事業所『ピアファーム』で 互いをメンバーとして一人ひとりにで は、ピア[peer=仲間・同僚]、ファーム スローガンに掲げる、あわら市の就労 [farm=農場]という名称のとおり、「お

3を占めています。 もりを経験したメンバーは全体の1 のうち生活に困難を抱えたり、ひきこ 所には現在43名のメンバーがおり、 ピアファームが運営する2つの事業 Z

が想像以上に多い」ことを常に意識し ていると言います。 ない」実践と「一人ひとりにできること の勝手な思い込みやレッテル貼りをし 宗石潤一さん(農場主任)は、「関わる側 田由紀美さん(サービス管理責任者)、 今回お話を伺ったピアファームの植

本人の自発性こそが原動力

フは、本人が自発的に話せる雰囲気づ で安心を感じてもらえるよう、スタッ かとの会話やささやかなやり取りの中 ファームを利用するメンバーたち。誰 ことです。 くりや丁寧な傾聴を心掛けているとの さまざまな背景や事情を抱えてピア

調されます。 捉え方は、ピアファームの利用には全 すすめたい」と植田さん、宗石さんは強 く関係がないこと。メンバーが安心し 「『ひきこもり』や『障がい者』という 楽しく仕事ができる環境づくりを

地域でのつながりへ ファームのつながりか

流も自然に生まれます。 販売までの工程でたくさんの人との交 すく、関われる場面が多様で、耕作から キルや工程にも幅があります。一人ひ とりのメンバーができることを探しや 品目や耕作の時季によって活かせるス 作業工程が多い農作業では、作物

反面、作物の成長から販売、収入確保ま 自然を相手に手間と労力がかか



ピアファームでの農作業風景

一歩を踏み出すきっかけづくり

域のつながりづくりもすすみます。

互いに顔の見える関係を土台にした地 スーパーでの住民との交流を通じ、 ます。また、周辺農家の人達や販売店・ り、達成感や自信、楽しさも引き出され での過程でメンバーに出番や役割があ

地域や社会とつながれる場には、「ひき こもり」という画一的な表現や定義の 以外のサポーターと出会い、安心して さを引き出して、踏み出す一歩への伴 づくり」の一端を垣間見ることができ 枠に押し込めない「共に生きる社会 走を続けるピアファームの実践。家族 人の自己肯定感や有用感、 「この状態から脱したい」ともがく本 居心地の良

背景にある世帯の社会的孤立 ひきこもりの長期化の

と家族の双方に必要なことが分かり は、「安心・安全な環境」と「理解してく きましたが、ひきこもりからの回復に れる人」が、本人(ひきこもりの当事者) ここまで具体的な支援について見て

背景も指摘されています。 域社会の偏見や無理解から、世帯ごと 社会的に孤立してしまっているという 一方で、ひきこもりの長期化には、地

ついて考えます。 が生むひきこもりと「8050問題」に 次回の1月号では、この社会的孤立

災害時の協力体制を強化

JC福井ブロック協議会との協定締結

県域から市町域でも協定締結へ

去る 10 月 4 円、公益社団法人日本青年会議所 (JC) 北陸信越地区福井ブロック協議会と県社協は「災害時 における相互協力に関する協定 | を締結しました。

調印式では、協定締結に至る経緯を説明したあと、 福井ブロック協議会の見谷頼貞会長と県社協の小藤幸 男会長が協定書に署名・捺印し、相互に協定を取り交 わしました。

今年1月に全国社会福祉協議会と日本青年会議所と の間で同様の協定が締結され、県域での連携強化が求 められていたことから今回の協定が実現しました。今 後は市町域でも同様の協定締結が広がっていくことが 期待されます。(なお、若狭町では9月30日に協定締結済。)

普段から一層つながりを強める

協定は、県内での災害を想定し、県社協からの要請 をもとに、福井ブロック協議会が対応可能な支援策を 検討のうえ、復興支援活動や災害ボランティアセン ター運営への人的・物的支援を行うこととしています。

一方、災害初動期における社協の支援活動では、災 害ボランティアセンター等の資機材や専門的スキルを もった人材の確保などが課題となっていました。

今回の協定により、こうした支援活動の課題を解決 する大きな力を得ることになりました。

なお、企業セクターとの協定締結は、令和元年9月 のライオンズクラブ国際協会 334-D地区(北陸エリ アを統括) との「災害時における福祉・ボランティア 活動支援に関する相互連携協定」に続くもので、今回 の締結は北陸では富山に次ぐものとなります。

協定では、災害時に限らず、平時から情報交換の機 会を設けるほか、災害支援に関する研修、訓練等への 相互参加を行うことなども規定しており、普段からの つながりを強めていくこととしています。



協定書を取り交わす小藤会長(左)と見谷会長

第68回 福井県社会福祉大会 開催!

本会では去る10月23日出、福井県生活学習館(ユー・アイふくい)にて、「第68回福井県社会福祉大会」を 開催しました。大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を受賞区分ごとの代表者7名に限定し、 他の受賞者や社会福祉関係者等には、YouTubeでのオンラインライブ配信を視聴いただく開催としました。

まず長年、社会福祉の様々な分野やボランティア活動で長年活躍され、その発展や向上に寄与された293人と 14団体の方々に、その功労を称える表彰が行われました。(被表彰者の一覧は次頁に掲載しております。)その後、 受賞代表者7名の方へのインタビューも行われました。

受賞者からは、業務や活動で心掛けていることとして「相談相手と目線を合わせて会話する」こと、日ごろの 活動のやりがいや喜びとして「支援の中で相手が笑顔を浮かべてくれる時がうれしい」、また今後の抱負として 「できるかぎり県民、地域住民の役に立ちたい」など、それぞれに熱い想いが語られました。

表彰式やインタビューの模様は、現在、本会ホームページでオンデマンド配信をしています。ぜひご覧ください。



ホームページ https://www.f-shakyo.or.jp/



民 生 委 員 児 童 一委員 功 労 表 彰 $\widehat{74}$ 名

福大福福越永福 井野井井前寺井 市市市市市町市

福

祉

委

員

功 労

'n

ンター

いろり

ング

セン

の

森

加加片橿宇市石 藤藤川尾宮川丸 外成由志昌 茂 紀津 恵子江子江夫

表 彰 28 敦越 永坂越 永坂 賀前 寺井 前 寺市市町市市町市 名

佐佐斉小小北北 野木藤林林野澤 敬ケ真信佐麗 イ理 登 子コ子義美子路

ピ

ス セン

タ

越越福美敦池越敦勝福坂福鯖福敦敦福小越鯖福敦越敦福越敦越越福福あ福小福敦坂 前前井浜賀田前賀山井井井江井賀賀井浜前江井賀前賀井前賀前前井井 ち井浜井賀井

新清志芝治佐佐笹斎齋小小小黒栗清<mark>木北北北川河河角加加片岡岡岡江岩岩岩岩今青</mark> 々 出水摩井儀飛木岡藤木松林嶋川本野下山野島畑内合野藤藤山本本田守本本田佐井木 ひ眞むあ春直裕慶さる千嘉志義直和幸典実あ由惠悦敦幸 ろ由つさ とい惠代保 け美美 子美み子枝美一子み子美子美規和夫代男男美子子子弘子 ・美正ユ奈悦信順眞邦守 佐 キ緒 由

福福池敦福福坂池小高大福勝南勝福福福福勝池敦福福福越美福坂敦福大敦敦福越敦 鰐吉山山山安八森村村宮箕南茨松前堀藤早橋橋野額仲永永仲長寺玉谷谷竹竹田杉隨 渕川本本田田木川宮宮下川 田田川田田瀬本詰波谷山田田嶋嶋澤村口口林内上原原 和久鈴直沙美博 福清宣八悦幸清惇 り俊睦三み和孝純敏由万誠文秋敏宣政 美 津つ 江子江子行 千 よ 和丸代子男秀子進子 紀里

佐佐左阪齊小後越小黒黒久木岸神叶加加加加笠筧奥大大大恵江浦内植猪一池荒阿穴相 木木近根藤林藤石川田川保村梅谷 藤藤藤島 村森橋谷美波松田田野瀬田井部田守

秀弘明千き美な育美順和ひみを ろ 美智祐康英加浄和百慶由祥康千美綾祐さ 真さ清恵 晶 奈美り 音 智 子爱子子 代 合 紀 代 子江美子文美子文美恵正春子 か -子孝行幸美代子和み恵加子恵み梓 介え 第二光が丘ハカラフル 第二光が丘ハウ 湯池野 総和園デイサー、 緑進会 花むつ苑 花むつ苑 でもらぎ会 あさむつ苑 愛寿苑 大野和光園 ライフト 陽 わら市金津雲雀ケ丘寮の和園 レーニ

会 福 祉 施 設 功労 表 彰 95 名

あすわ第1

社

福越越福福福福 井前前井井井井 市市市市市市市

成富鶴田多竹渋 田田野中田内谷 幸鈴佐理三ち香 智恵千づ代 子子子子代子子

越敦越福美越福 前賀前井浜前井 市市市市町市市 暁雅勢 津 美見子恵郎子子子

渡山山山森松藤 辺本本崎山田井 -綾明紀

<mark>福福福大坂あ福越福福福小あ</mark>小福福大坂あ勝勝福鯖越小勝勝大越坂あ鯖鯖福福越福小福敦勝あ敦大福あ福

<mark>森毛村宮三湊水水三萬丸松本文古藤伏廣廣廣廣林服畑畠橋野中永冨道出坪土土土田民谷谷谷髙大鈴白澤佐</mark> 市本里部濱瀬瀬 部中中爪坂山田田場口内屋橋橋村安出岡 下利井村村 野上上谷山山田 井良木井崎藤

香み範孝留良 知満幸久由美元 奈美喜政洋澄俊千加芽隆紀由桂圭宏美麻ゆ貴啓幸宏 ど 美佳代 穂 久 加津久 奈 か 織り子子美治愛也也恵子里子栄武美紀子樹二子江代美美市夫佳子一美子実り子吾枝至 正美宏真信真恵恵 奈かって 美子実り子吾枝至覚枝子 由 紀 之美博子美美 若越みどりの 福井美山荘 福井美山荘 大芦白大 日原 梅野 園メロ園 走 しの 諸苑 で 楊梅苑 あすわ地域生活支援センター白梅学園 五 つぐみ福祉会 岳園 全園 位園デイサー 苑 苑ケアプランセン ピ ス

セ

ンタ

小勝福鯖越大鯖美小美永勝鯖鯖福永越鯖福福小鯖鯖越鯖坂鯖鯖鯖鯖越越鯖鯖鯖福福福 浜山井江前野江浜浜浜寺山江江井寺前江井井浜江江前江井江江江江江前前江江江井井井

吉芳山山山山柳森森武松牧堀福廣林林野中飛堂土谷武竹髙瀬杉九岸岸川大宇岩市 崎嶋坂下田口田内井川本島上 田沢本場﨑内瀬本井藤井野 岡瀬 本谷野田原島駒田

ー和佳<mark>直聖友乃勢ゆ千し奈</mark>景ひ真友貴麻 ・・・・・大津かっの、ろ め麻裕佳美妙聖弘真涼靖聖仁京祐 雅実理亜真 希 み子子奈冴子子子貴子子子恵子朗美恵代美子紀子子り里ぶ奈子美生紀子佳薫代代奈子澄 春江東幼保育園 すみれ保育園 すみれ保育園 | 家久保育園 | 家久保育園 | 惑光保育園 | 惑光保育園 | さいました。 | 家久保育園 認定西こども 加き 幼ふ越阪ああ聖 じ保育園 たこども園 じ保育園

園あさか

ぜ

越前町立朝日西2000谷保育園 保連携型認定こども 保育所 園 1 あさ

優良

ボ

ラ

テ

1

表

個

22

名

市

小

田

睦

子

共

同

募

金

運

動

優

良

団

体

表

彰

6

団

体

福福鯖勝勝敦越勝福大 井井江山山賀前山井野 市市市市市市市市市市

龍吉吉吉横山山山山山

﨑野田田平本本端下腰 康拓美一康由智宏 一裕 紀

子巳保美弘子美 -美子 彰 愛寿苑デイサービ あすわ相談支援事業所の 大日園 大日園 大日園 一陽 八日園 L の園 渚 苑

保 育 施 設 - ビスセンター 坂事業所リアン 所つつじ 39 名

祉

施

設

功

労

米郷こども園の保連携型認定 こども園 園三谷館 あさか

坂坂南越坂越坂越坂坂南 前井前井前井井前 市市町市市市市市市市町

か せ

下志坂酒北北川角岡池赤 口田口井尾 崹 島田澤 <mark>和一</mark>弘ヤ美洋多 麻 エ栄 津 子呂子子子子子 孝富雅宏和

坂坂坂越坂坂坂坂南南越 井井井前井井井井前前 市市市町市市市市市町町市 三見松福半西西中大杉

橋澤崎田田澤畑出村梧田 紀八節美絹 芳恵ハ浄よ 美重 津 美ナ し 恵子子子江毅子子子子子

池越越越越福

敦小坂敦永越福若坂小永若坂福福福福越福敦美越福永福越高若福<mark>南越福永越福</mark> 賀浜井賀寺前井狭井浜寺拱井井井井井前井賀浜前井寺井前浜狭井前前井寺前井 市市市市市市県町市市前町市市市市市町市市町町市町県町町町市町市市町市

吉山森宮前前前藤花畑萩野西武菅島柴駒小糀倉木神笠小小内宇宇上上岩伊荒天

川田景下田澤川井木 澤頭澤部生田田野林谷田村子松澤川谷敷美島木下藤矢谷

光美善嘉昌愛輝雄剛澄恵仁し嘉信実博和か弘保、代のの千一を 茂祐健直雅眞浩照美博由 由 惠 美 美 子昭子 イイ子 智 美

坂井市社会福祉協議会福井市場人福祉協議会福井市場人福祉協議会 敦賀市東郷地区社会永平寺町社会福祉協議 坂井市社会福祉協議会 賀 市 市 社会福祉協議会

南地区社会福祉協議会 協議会

小 共 浜 同

募

金

表

彰

î

名

本 若狭町社会福祉協議会 高浜町社会福祉協議会 市東地区社会福祉協議会 東護市南地区社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 大越前町社会福祉協議会 福井市棗地区社会福祉協議会越前町社会福祉協議会 越前市肢体 永平寺 福井市棗地区社会福祉協議会 越前町社会福 町 障が 区社会福祉協議会 い者福祉: 協議 協会 越越坂若坂坂越越福永越福越坂前前井狭井井前前井寺 井前井 町町市町市市町市町市町市町市

福福福福福福福福福 井井井井井井井井井

共

同

募

全

運

動

奉

仕

功

(労者

表

彰

19

名

市市市市市市市市市市 黒川加岡岡岩岩岩石伊 川畑藤田田本佐佐橋坂

運 動 義由幸ユ妙信眞眞文勝 美 丰 由 従 規子子江子義美弓惠實 事 功 労者

小福福福福福福福福 浜井井井井井井井井 市市市市市市市市市 阿箕前成富田田相齋 部川川田樫仲上模木 登福悦幸孝幸敏みる 子子蔵枝子江子

福井県共同募金会会長表彰」被表彰

ランテ イアグ 海 0 ル 会

口步 会所 ボラン 属 ティ

うちの婆っ ちゃ 水仙 ま

座

ティア 「グラ ン 7 ٤ い 0 L ょ

福福 田前前前前井 はセンターで行われました。は、共県共同募金会会長表彰の表彰式は、 町市市市市市 池越越越越英 田前前前前光 町市市市市産 区吉武大味業長野生虫真株式 10月27日水に福井県社会

良 ボ ラ テ イ ア 表 彰 团 体》 14 団

協議会

わくわく

き

V

き倶

楽

テ

イ

アグ

ĵν

ープ

あじ彩クラ

社 会

福

祉

協

議

会民

間

社

会

福

祉

団

体

功

労

表

彰

(35 名)

体

第60回福井県保育研究大会

保育関係者約430名がオンラインで参加

「第60回福井県保育研究大会」を、初めての試みとしてオンラインにて開催しました。分科会は8月24日似~26日休にZoomにて、全体会は8月30日月~9月5日印までYouTubeにて配信し、県内の保育関係者約430名が教育・保育、子育て支援などに関する様々な課題について学びを深めました。

8つのテーマ別分科会討議

分科会は、感染対策を講じたうえで、司会者、意見発表者、助言者のみが福井県社会福祉センターに集合して開催しました。「新たな時代の保育実践」「配慮を必要とする子どもや家庭への支援」など、8つの分科会ごとに、日頃の保育実践を踏まえた気づきや課題に関する意見発表の後、チャットによる質問に答えたうえで助言者からのまとめを聴講し、専門職としての使命を確認しました。



敦賀市による研究発表

敦賀市公私立保育研究会による研究発表では、「保護者支援につながる保育~エピソードの記録と保育士としての成長~」をテーマに、様々な事例や実践を通じて、「保育力アップ」「つながる心」「語り合える仲間」が保護者支援に必要な土台であると気付いたことなどが報告されました。

記念講演とまとめ

記念講演では、仁愛大学人間学部心理学科の森俊之教授が「ディスタンスから考える保護者とともに進める保育〜ディスタンス(距離)に関する心理学〜」をテーマに、コロナ禍における行動制限の心理的影響や子どもや保護者との距離を調整する工夫等についてご教示いただきました。

最後に読み上げた大会宣言では、教育・保育の質の 向上に向けた決意を参加者全員で確認し、明日からの 実践に向けて気持ちを新たにしました。



- ▲全体会における配信の様子
- ▲分科会における意見発表等の様子

介護の「外国人技能実習生」受入施設募集

令和4年度 入国予定者

「明るい性格で、年配者に対する尊敬や思いやりに溢れる」タイ人介護技能実習生の受入施設を募集いたします。 具体的な説明や相談等を希望される場合は、下記まで連絡ください。

【監理団体】社会福祉法人福井県社会福祉協議会(ふくい外国人介護職員支援センター)

【募集施設】県内の介護施設・事業所 10施設程度

【技能実習生】タイ人介護技能実習生 20人程度(主に女性・20代前半)

【受入要件】(1)2人以上で受入れてください

(2)基本的に受入期間は3年間となります

(3)日本人と同等以上の月給のほか、監理費が必要になります

(4)住居(寮)および生活必需品をご用意ください ※詳細についてはお問い合わせください

【県社協の取り組みの特色(メリット)】

- 介護現場に精通した職員が体制づくりからアドバイスを行い、外国人介護職員受入れの不安を解消
- ●施設配属前には、県介護福祉士会と連携して介護講習を実施し、施設の実習にスムーズに移行
- ●タイ語の専任通訳職員が公私にわたり実習生とのコミュニケーションをフォロー
- 実習開始後も日本語上達に向け、独自の日本語研修を毎月開催

問合せ先

ふくい外国人介護職員支援センター TEL 0776-24-0086 FAX 0776-24-8941 E-mail: kaigo@f-shakyo.or.jp

寄付 寄贈

♥8月23日(月)

寄贈者 匿名の方(福井市) 玄米30 k g 4袋

寄贈先 福井県社会福祉協議会 (本会を通じて、県内の児童養護施設へ)

♥9月22日(水)

寄付者 一般社団法人 生命保険協会 福井県協会様 障がい者支援団体への助成金100,000円 エコキャップ420,621個

寄付先 社会福祉法人 つみきハウス(小浜市)

寄贈先 ふくいエコキャップ運動委員会



♥10月7日(木)

寄付者 明治安田生命保険相互会社 福井支社様 寄付金 100万7,500円

心温まる寄付・寄贈に心から感謝申し上げます。 皆様の善意は有効に活用させていただきます。

寄付先 福井県 社会福祉協議会



♥10月12日(火)

寄贈者 匿名の方(坂井市) 玄米30 k g 1袋

寄贈先 福井県社会福祉協議会 (本会を通じて、県総合福祉相談所へ)

♥10月27日(水)

寄付者 トータル・ライフ・コンサルタント福井会様 寄付金 5万円

寄付先福井県社会福祉協議会

出土にり情報

第10回ふくいチャリティー・アート展 ~未来を支える子どもたちのために~

人場無料

時 12月18日(土)~20日(月) 9:30~17:00(最終日は15:30まで)

会 場 福井市にぎわい交流施設「ハピリンホール」(福井市中央1丁目2-1)

本県にゆかりのある名士・作家の方から寄贈された書・絵画・版画・陶芸品などを展示し、入札にて頒布します。作品頒布による収益は、子どもの健全育成・自立支援に向けた事業「子ども未来支援事業」の財源として活用させていただきます。詳しくは、下記までお問い合わせください。





問合せ先

総務企画課 「ふくいチャリティー・アート展」係 ☎0776-24-2339

+つなぐ福幸メッセ 2021

「コロナ禍を生きる、支える」 みんなのエール 作品展示について

本会では、「『コロナ禍を生きる、支える』みんなのエール」をテーマに、福祉現場や活動で「コロナ禍の心の支えになった出来事」等のエピソードを募集し、総数56点の応募がありました。

この応募のあった全作品の移動型展示会を、11月1日例から 県内各所で行います。また、同時にホームページでも作品集 を公開します。

さらに、今回のメッセにあたり、作家の宮下奈都氏をはじめとする講評委員の皆様の講評コメントも展示・公開します。

ぜひ展示会場やホームページ上でエピソードを ご覧いただき、その感想や福祉現場に対する思 いやメッセージ等のコメントをお寄せください。

問合せ先:総務企画課 総務企画グループ

1 0776-24-2339 Phttps://www.f-shakyo.or.jp/

日程場所 会場名

1 11/1(月)~11/12(金) 県社会福祉センター(福井市) 1階東側ロビー

2 11/13(土)~11/19(金) 県立若狭図書学習センター(小浜市) エントランスホール

3 11/20(土)~11/21(日) 武生楽市(越前市) 1階センターコート

4 11/22(月)~11/26(金) 敦賀駅交流施設オルパーク(敦賀市) 2階休憩所

5 11/27(土)~11/28(日) ショッピングシティベル(福井市) 1階北コート

6 12/1(土)~12/10(金) 県社会福祉センター(福井市) 1階東側ロビー

7 12/11(土)~12/12(日) ラブリーパートナーエルパ(福井市) 1階エルパスペース

8 12/18(土)~ 12/20(月) ハピリン(福井市) 3階ハピリンホール